

令和 5 年 度

主 要 施 策 の 成 果 に 関 す る 説 明 書

令和 6 年度滋賀県議会定例会
令和 6 年 9 月 定 例 会 議 提 出

[総 務 部 門]

滋 賀 県 の 施 策 の 分 野

- I 人 自分らしい未来を描ける生き方
- II 経 済 未来を拓く 新たな価値を生み出す産業
- III 社 会 未来を支える 多様な社会基盤
- IV 環 境 未来につなげる 豊かな自然の恵み

目 次

	頁
I 人	該当なし
II 経 済	該当なし
III 社 会	73
IV 環 境	該当なし

Ⅲ 社 会

未来を支える 多様な社会基盤

事 項 名	成 果 の 説 明
1 移住・交流推進および関係人口創出 予 算 額 66,734,000 円 決 算 額 66,039,936 円	1 事業実績 (1) 移住・交流推進 滋賀県への移住や交流の促進のため、県外への積極的な情報発信と、移住希望者の受入態勢の充実を図るための取組を行った。 ア 「しがI J U相談センター」の運営 イ 滋賀移住・交流促進協議会（県、14市町、1大学、3団体）の開催（5回） ウ 移住セミナー・相談会の開催（東京1回、大阪1回、オンライン1回） エ おいでや！いなか暮らしフェアへの出展（1回） オ ふるさと回帰フェアへの出展（1回） カ J O I Nフェアへの出展（1回） (2) 関係人口創出 関係人口の創出のため、デジタル技術を活用した多様な体験の場を提供し、市町等との連携による地域活性化の取組と全国への情報発信を行った。 ア かかわりファクトリー滋賀推進協議会（県、13市町、2大学）の開催（5回） イ デジタルプラットフォーム（「SMO U T（スマウト）」）の活用（県、13市町） 令和5年度 記事掲載件数：204件 ウ デジタル地域コミュニティ通貨（まちのコイン「ビワコ」）の活用（県、5市町） 令和5年度末 ユーザー数：12,947人 スポット数：667箇所

事 項 名	成 果 の 説 明										
	2 施策成果 (1) 移住・交流推進 都市からの移住・交流等をサポートする移住支援団体や市町等と連携し、滋賀移住・交流促進協議会を通じ、地域の魅力を県外へ情報発信する取組の展開と受入態勢の充実を図ることができた。 令和8年度（2026年度）の目標とする指標 <table><tr><td>移住施策に取り組む市町への県外からの移住件数</td><td>令3（策定時）</td><td>令5</td><td>目標値</td><td>達成率</td></tr><tr><td></td><td>187世帯</td><td>559世帯</td><td>650世帯</td><td>80%</td></tr></table> ※実績に伴い、令和5年度に目標値を上方修正。 (2) 関係人口創出 県・市町において、「SMOUT（スマウト）」の活用により地域づくり人材の募集やイベント告知等を行い、全国の地方に関心を寄せる方々に情報発信を行うとともに、「ビワコ」の活用により地域の魅力を体験できる機会を提供し、更なる関係人口の創出を図ることができた。 3 今後の課題 (1) 移住・交流推進 新型コロナウイルス感染症を契機とした地方への移住ニーズの更なる高まりを受け、テレワークを利用する移住をはじめ、社会や人の意識の変化にも対応していく必要がある。 (2) 関係人口創出 県内市町や団体と連携した情報発信を行っているが、その効果は地域によって差があることから、地方に関心を寄せる方々のニーズにあった情報発信ができる人材の育成が必要である。また、「ビワコ」ユーザーに対して、一過性ではない継続的な関わりを創出する必要がある。	移住施策に取り組む市町への県外からの移住件数	令3（策定時）	令5	目標値	達成率		187世帯	559世帯	650世帯	80%
移住施策に取り組む市町への県外からの移住件数	令3（策定時）	令5	目標値	達成率							
	187世帯	559世帯	650世帯	80%							

事 項 名	成 果 の 説 明
	4 今後の課題への対応 (1) 移住・交流推進 ①令和6年度における対応 本県への移住者の約半数を占める近畿圏在住の移住希望者に対して、きめ細やかな相談対応を行うため、大阪市内に相談窓口を設置した。東京の相談窓口とも連携し、移住先として選ばれるよう本県の魅力発信を行い、更なる移住定住の促進に取り組んでいく。 ②次年度以降の対応 引き続き、市町や移住支援団体等と十分連携を図り、本県への移住促進の取組を進め、地域の活性化を図っていく。 (2) 関係人口創出 ①令和6年度における対応 「SMOUT（スマウト）」については、ライター配置により市町職員の情報発信スキル向上を図り、更に魅力的な情報発信となるよう努めるとともに、「ビワコ」については、モデル地域を新たに2市町選定し、多様な体験の場を提供する地域を拡大した。 ②次年度以降の対応 関係人口の創出に向けて、引き続き市町等と連携し、「SMOUT（スマウト）」を活用した県外への積極的・魅力的な情報発信と、「ビワコ」を活用した多様な体験の場の提供を図っていく。 （市町振興課）

事 項 名	成 果 の 説 明
2 個性を活かした活力ある地域づくりの推進 予 算 額 451,166,000 円 決 算 額 451,128,380 円	1 事業実績 自治振興交付金 市町が地域の実情に応じて選択した事業（市町向け県単独補助金を交付金化した、49事業のメニュー）に対し、交付金を交付した。（選択事業 424,183,380円） また、人口減少社会における課題に対応するため市町が提案した「若者がとどまる」・「外から移り住む」・「子どもを育む」ことにつながる事業に対して交付金を交付した。（提案事業 26,945,000円） 2 施策成果 市町の自主性・主体性を発揮した施策の展開を支援することができた。また、全ての市町において、提案事業を活用した事業が実施され、地域特性や課題に応じた、各市町のきめ細かな施策に対して支援をすることができた。 3 今後の課題 市町の地域特性や課題に応じた支援内容の検討を継続していく必要がある。 4 今後の課題への対応 ①令和6年度における対応 引き続き、庁内関係各課と連携して適切に執行するとともに、市町の地域特性や課題に応じた支援内容を検討する。 ②次年度以降の対応 令和6年度の結果を踏まえ、庁内関係各課と連携して適切に執行する。 （市町振興課）